

# 愛知県 精神医療センター ニュース



## デイケアセンター

認定看護師+CERTIFIED NURSE

精神科看護の変遷～昭和・平成・令和～

[シリーズ] 教えて先生『脳科学と精神神経疾患』

INFORMATION

CONTENTS

愛知県精神医療センター広報誌

2019.11  
Vol.06

シリーズ  
教えて先生!? 4

## 脳科学と精神神経疾患

かつて、統合失調症をはじめとする精神神経疾患は、原因や治療がわからない故に、差別と偏見を受け続けてきた。ひとは理解できないものを恐れる生き物なので、疾患の不可解さに対する恐怖も相まって、わからないものは排除しようという心理が働くと思われる。

9世紀のドイツで、ヴィルヘルム・グリージンガーが「精神病の病理と治療」という本の中で「精神病は脳病である」という有名なテーゼを示した。これは、精神医学の歴史のなかで最大の転換であり、それまで「憑依現象」であるとか、「呪術」であるといわれてきたことが、治療の対象である疾患として医療の場に登場したのである。そしてこのテーゼは「精神医学のマグナカルタ」(大憲章)と言われるようになった。グリージンガーが提示したのは、精神神経疾患の主座は脳という身体の器官にあり、他の身体疾患となんら変わらないということである。それによって、精神神経疾患が理不尽な恐怖の対象ではなく、医学的な治療の対象となったのである。まさにコペルニクス的転回であった。

数年前、ベルリンの学会で、統合失調症 schizophrenia という古くからの病名を変えるべきかどうかという討論のセッションがあった。そのなかで日本の例に触れ、「精神分裂病」を「統合失調症」に変えたことや、また韓国では attunement disorder(調弦病)という名前に変えたことで差別



羽渕 知可子 医師

【好きな食べ物】 麺類、餃子  
【好きなもの】 音楽、旅行、海外ミステリ

や偏見が劇的に減ったという主張があつた一方で、「AIDSと同様、治療法が分かれれば差別や偏見はなくなるのであって、名称を変えたとしてもしばらく経てばそれが差別や偏見に変わるのだから、軽々しく名称を変えて一時しのぎをするべきではない、そのことよりも治療法や病因解明にエネルギーを注ぐべきである」という主張が対立した。2時間半に及ぶ討論で、当初半々であったが、最終的にはほぼ全員が「名称の変更というような一時しのぎは無意味である」という意見に賛成し、その場にいた日本人である私は、非常に複雑な気持ちになった。

日々の臨床で、なかなか研究をすすめることは難しいと実感しているが、しかし、名古屋大学と共同で進めている精神科ブレインバンクの一端をになう活動を通して、すこしでも精神神経疾患の解明と治療法の進歩に寄与でき、差別偏見の解消につながればと願っている。

## INFORMATION

地域の皆様、日頃は愛知県精神医療センターの運営に、ご理解・ご協力いただきましてありがとうございます。

愛知県精神医療センターでは、令和元年7月の健康増進法改正に先立ち、平成29年2月から敷地内禁煙に取り組んでまいりました。しかし、平成30年8月に当センターの全面改築が終了した頃から、病院周辺で喫煙している病院利用者がいるとのご指摘が増えました。

そのため、病院職員が輪番で行う、毎日の禁煙パトロールを開始し、一年以上経った現在もその取組みを続けています。また、禁煙促進委員会を毎月開催し、病院全体で強力に禁煙推進活動を展開しているところです。

こうした禁煙促進の活動は、一時的なもので終わるのではなく、地道に、継続的に行なうことが効果的であると考えています。地域の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。



# 認定看護師 + CERTIFIED NURSE



柳谷 このみ

昭和56年の入職当初  
「看護婦さん、ちょっと来て！中庭にイチゴが成つてるよ」と患者さんから声がかかる、大小のイチゴが赤くなっているのを観て、病院

院なのに？と驚きました。その頃は病院の敷地内にたくさん煙があり、病棟日々の屋外作業を週3回患者さんと烟へ行って土を耕し、季節に応じた野菜を収穫して患者さんと一緒に食事を行つたので、ソフトボールやゲートボール、水泳とスポーツもたくさん取り入れ、さらに年間行事のキャンプや運動会、1泊旅行、行楽など昭和の精神科看護

は患者さんと一緒に作業とレクリエーションを活発に行つた事でした。昭和の退院支援と言えば、患者さんが職親制度の職場（印刷・メック・段）へ行つて週5日働き、経験を積んで単身生活へ移行するケースがほとんどでした。精神疾患と生活障害を併せ持つ患者さんにとつて健常者と同様な生活を目指して地域で働くという厳しい条件での社会復帰でした。

平成に時代が移り、徐々に患者さんへも「ゆとり」を大切にした看護が展開されました。平成5年の「障害者基本法」で知的・身体障害者に精神障害者が加わり、障害者としての福祉サービスを受けることが出来る様になり、さらに平成7年には「精神保健法」から「精神保健福祉法」へ法の改正で、患者さんが無理なく地域で生活できるようデイボル工場など）へ行つてボル工場など）へ行つて患者がほとんどでした。精神疾患と生活障害を併せ持つ患者さんは、自分たちで働くことを目標に退院して地域で働くという厳しい条件での社会復帰でした。

昭和56年の入職当初  
「看護婦さん、ちょっと来て！中庭にイチゴが成つてるよ」と患者さんから声がかかる、大小のイチゴが赤くなっているのを観て、病院

## ● 精神科看護の変遷

（昭和・平成・令和）

は患者さんと一緒に作業とレクリエーションを活発に行つた事でした。昭和の退院支援と言えば、患者さんが職親制度の職場（印刷・メック・段）へ行つて週5日働き、経験を積んで単身生活へ移行するケースがほとんどでした。精神疾患と生活障害を併せ持つ患者さんは、自分たちで働くことを目標に退院して地域で働くという厳しい条件での社会復帰でした。

平成に時代が移り、徐々に患者さんへも「ゆとり」を大切にした看護が展開されました。平成5年の「障害者基本法」で知的・身体障害者に精神障害者が加わり、障害者としての福祉サービスを受けることが出来る様になり、さらに平成7年には「精神保健法」から「精神保健福祉法」へ法の改正で、患者さんが無理なく地域で生活できるようデイボル工場など）へ行つてボル工場など）へ行つて患者がほとんどでした。精神疾患と生活障害を併せ持つ患者さんは、自分たちで働くことを目標に退院して地域で働くという厳しい条件での社会復帰でした。

大していくことやSST<sup>ii</sup>（活動技能訓練）・コグトレ<sup>iii</sup>（知機能を高める訓練）・疾患教育などを取り入れて活発に精神科リハビリテーションを行っています。

令和を迎えた現在は、様々な精神疾患を持つ患者さんへの個別の看護が複雑であり、個々に時間を要する援助が増えました。入院時から退院後の生活を見据えて治療・看護を提供し、国の施策「3か月以内の退院」を目指して安全な退院調整をしていきたいと思います。

電話など私物の自己管理を拡張と自立をめざして患者さん個々の能力を重視し、現金や薬の自己管理をはじめ、管理の幅が広がりました。病院では患者さんの健康回復と自立をめざして患者さん個々の能力を重視し、現金や薬の自己管理をはじめ、管理の幅が広がりました。病院では患者さんの健康回

i 社会適応訓練として熱意を有する事業経験者 ii 生活技能訓練には基本訓練モデル・問題解決技能訓練・服薬や症状自己管理などモジュールがある。 iii コグトレーニング・きく・想像するための認知機能強化トレーニング



## デイケアプログラム・活動室紹介

デイケアで行うプログラムには、毎日自由に選んで参加できる一般プログラムと、あらかじめ参加者を決めて行う専門プログラムがあります。活動室は料理室をはじめ、和室、ミーティングルーム、音楽室などを整備しています。城山ホールを使用しての運動プログラムも活発に行っていて、院外の大会にも参加します。月1~2回行う外部講師による書道教室、卓球教室、音楽教室、手芸教室、パン教室は参加者から毎回好評を得ています。



# デイケア センター

その人らしさをいかし、地域生活を支えます。居場所から就労まで。



## デイケアとは

デイケアは、こころの病をもつ方が安心して過ごせる居場所を提供し、社会復帰のお手伝いをする場所です。また、発達障害などの特性のために生きにくさを感じている方が、少しでも生きやすくなるよう日常生活での工夫のお手伝いをするところもあります。医師、看護師、作業療法士、公認心理師、精神保健福祉士などによる、レクリエーション、創作、スポーツ、心理療法、発達専門プログラムなど各種プログラムをご用意しています。

医師 大村 豊



## 一日のスケジュール

8:45	開 所
9:30	朝の会
10:00～11:00	プログラム
11:45	昼 食
13:15	午後の会
13:30～15:00	プログラム
15:15	帰りの会
16:00	閉 所

## 一週間のスケジュール

日	月	火	水	木	金	土
午前	休み	茶話会 陶芸 就労支援プログラム	パソコン レク	創作 成人発達プログラム	アロマ 成人発達プログラム	ゲートボール 茶話会 認知プログラム
午後	休み	カラオケ ソフトバレー SSTプログラム	ヨガ 料理教室	茶話会 成人発達プログラム	陶芸 卓球教室 手芸教室	ソフトバレー 書道教室 音楽教室
夜					ナイトケア	



看護師  
杉原 茂樹

精神科勤務30年目になります。デイケアでは運動プログラムを中心に、メンバーと一緒にスポーツを行っています。当デイケアは希望会ソフトボール準優勝、希望会卓球大会準優勝、希望会ゲートボール優勝、名古屋市障害者スポーツ大会（ソフトバレーボール）3位と様々な大会で好成績をおさめています。お互いを思いやる気持ちを持ち、チームワークを大切にした活動をしています。デイケアを明るく元気にするよう心掛けています。



作業療法士  
中西 綾子

デイケアは、ある方にとって居心地のよい場所、ある方にとって社会に出る準備をする所です。利用目的や将来の目標はその方によって様々です。私たち作業療法士は、集団の中での関わりも個別での関わりも大切にしています。プログラム内外の活動を通して、一人ひとりの困りごとや希望をうかがい、より自分らしい暮らし・生き方をみつけられるよう一緒に考えていきます。気軽に声を掛けただけたら嬉しいです。



精神保健福祉士  
泊 裕子

デイケアの毎日はあつという間です。朝はメンバーさん達と元気に挨拶を交わすことから始まり、プログラムを一緒に活動したり、PSWとして仕事や生活など、個々人が抱える様々な課題を共に悩み、喜び合ったりしています。帰りの会では皆で1日を振り返りながら、頑張った自分に拍手の賛美をして終わります。メンバーさんの勢いに元気すぎる私もタジタジですが、ホッと安心できる“こころの抛り所”になるよう尽力したいと思います。



臨床心理士  
沢出 新吾

デイケアの機能のひとつは「居場所」だと思います。利用される方が、色々な思いを抱えながらもそこに居られて、少しの間でもホッとできる空間。利用する皆さんにとって安心できる場所を提供していくことが治療につながっていきます。心理士として、私は日々の相談に応じたり、お話を聴くだけでなく、デイケアと一緒に過ごしながら皆さんのちょっとした心の動きや、気持ちの変化にも気づけるように心がけています。